

# 進路だより

令和4年12月21日  
都立中野特別支援学校  
第4号  
校長 和田 慎也  
担当 小田原 紀子

## 【専任より】

高等部3年生の進路選択も、いよいよ大詰めとなりました。区内の福祉施設の利用を希望される方については、次年度の施設利用に向けて、各区の希望調査が始まりました。在住区の福祉施設を希望される方は、調整会議を経て、進路先となる福祉施設が決定することになります。また、企業就労を希望される方については、採用内定が出た方、これから採用選考に臨まれる方など様々です。進路先となる企業の内定が出るまで、最後まで諦めず挑戦する方もいらっしゃいます。卒業まで残り3か月となりますが、それぞれの進路先が決定することを望みます。

### ◆企業就労に求められるもの

今学期は企業見学会や進路研修会を実施し、障害のある方が働く企業見学や企業担当者の話を聞く機会を設定しました。お忙しいところ、御参加いただきました皆様、ありがとうございました。

見学会や研修会に参加された方々から感想をお聞きすると、「(自分の子どもを)この会社で働かせたい」という話をよく耳にします。さらに、その理由をお聞きすると、「支援者が多くて手厚い」「支援者の理解がある」「障害のある方の『働く』環境が整っている」などを挙げられる方が多くいらっしゃいます。保護者の方にとっては、障害のある方を雇用する企業側の支援が気になるようです。

法律の話。憲法第27条(労働の権利)では、「すべての国民は、勤労の権利を有し、義務を負う」と記載されています。障害のあるなしに関わらず、すべての国民は勤労の権利をもっています。ただし、障害のある方が企業で働くとなると、いくつものハードルがあるのが現状です。障害のある方が勤労の権利を行使し、一般社会の中で働けるように具現化されたものが、「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」になります。

障害者雇用促進法の第5条では、事業主の責務として、「能力の正当な評価」「適当な雇用の場の提供」「適切な雇用管理」を求めています。こうした法律の背景もあり、障害者雇用に対して企業側は努力しています。その反面、同第4条では、「障害者である労働者は、職業に従事する者として自覚を持ち、自ら進んで、その能力の開発及び向上を図り…」とも記載されています。つまり、労働者として働く障害のある方も、「働く」ということを自覚し、自らの成長を目指してチャレンジしていく姿勢が求められています。

「企業就労する上で求められるものは何ですか？」

企業の採用担当の方に話を伺うと、「企業で働きたい強い気持ち」と「何でも挑戦しようとするチャレンジ精神」と言われます。採用選考面接の場においても、「この会社で働きたいと思った理由は何ですか?」「この会社でチャレンジしたいことは何ですか?」といったような質問を受けることがあり、企業側も採用選考基準の1つとして捉えているようです。企業は福祉サービス提供機関ではないため、障害のあるなしに関わらず、労働者としてどれだけ会社の業務に貢献できるかを見ています。企業に採用されるためにも、「企業で働きたい気持ち」を強くもち、それをアピールすることが大切なのです。

特別支援学校に通う生徒の多くは、一般社会での就労経験がないため、「企業で働きたい気持ち」が分かりません。しかしその一方で、過去の卒業生が自身の採用選考の場で、企業で働きたい理由を聞かれると、「現場実習を通して、仕事に自信がもてるようになった」「職場の方に『ありがとう』と言われたい」「お世話になっている両親にプレゼントしたい」「自分が好きな〇〇を買いたい」などの回答をしていました。現場実習や家庭生活、自分の趣味の場など、それぞれの経験から「企業で働きたい気持ち」を見出したのだと思います。

今年度の企業見学でお伺いしたりゾートトラスト株式会社の北沢様が、学生時代から取り組んでほしいこととして、「いろいろなことにチャレンジしてほしい」と言われていました。いろいろなことにチャレンジして経験を積むこと、その経験は時には成功体験となり、「働きたい気持ち」につながるかもしれません。

いよいよ冬休みが始まります。冬休みにどんなことにチャレンジするか、御本人と御家族で話し合われてはいかがでしょうか?

(田邊 大樹)

### 【小学部】

5, 6年生は今年も残念ながら校外での就業体験が中止となりました。しかし、学校の中でお仕事を体験することができました。スクールバス清掃は乗務員の方々に御協力いただき、バス内に掃除機をかけたり、手すりや窓を雑巾で拭いたりしました。また、技能主事の方に御協力いただき、掃除の方法を教えていただきました。6年生は学校の敷地内の落ち葉掃きをしました。竹ぼうきや熊手を使うことは初めてでしたが、説明をしっかりと聞き、大きな袋2つ分、落ち葉を集めることができました。また、高等部の生徒から机拭きを教えてもらいました。最後に高等部の生徒から「はたらきまんでしょう」を受け取りました。お互いにとっても充実した活動となりました。(小田原 紀子)

### 【中学部】

1年生の2学期の職業の授業では、1学期から引き続き取り組んでいる「挨拶」「身だしなみ」に加えて、ボールペンの組み立てや封入などの「軽作業」を主に取り組みました。どちらの作業も手順を確認しながら指示どおりの順番を意識して取り組み、作業が完了したら「できました。」と教員に報告を行います。決められた手順で間違いのないように注意して行う仕事の難しさに悩んでいますが、完成したときの達成感と喜びを感じながら向き合っています。1月には、いよいよ「ふらっとなかの」での就業体験があります。卒業後の進路選択の一つとして、社会に出て働いている人たちの姿を見学し、学びたいと思います。(石田 直暉)

### 【高等部1年】

11月中旬に第1回職場見学を実施いたしました。昨年度1年生はコロナ禍により校内での活動に替えての実施でしたが、今年度は見学人数を小集団とすることで働く現場を見学することができました。企業コースでは、小売業(靴の販売)や飲食業(カフェチェーン店)、特例子会社(小売り業付帯業務)を見学・体験し、実際の産業現場での緊張感を味わったことと思います。福祉事業所コースでは、就労継続支援B型作業所等を訪問しました。先輩たちがテキパキと集中して働く様子を目にし、社会人として働く姿勢に刺激を受けたことと思います。

あっという間に第1学年も後半に入り、進路学習も将来の自分を想像していく段階になってまいりました。保護者の方々におかれましては本進路だよりの高等部2年生、3年生の記事を御覧いただき1年後、2年後に取り組むことへ向けて、心の準備運動を始めてみてください。

(本橋 剛、江川 拓郎)

### 【高等部2年】

7月に実施した「高等部2年生 第1回進路希望アンケート」をもとに、現場実習が実施されました。1学期に体験した『ミニ実習』とは異なり、生活介護事業所以外は生徒一人で参加するとあって、事前の面談や通勤練習を行いながら、現場実習に向けて気持ちを高めていきました。

いざ、現場実習が始まると、生徒たちは学校と異なる環境の中、様々な仕事を行う上で周囲の人と上手にコミュニケーションをとる必要があります。自ら発信することの大切さをひしひしと感じとったようです。

ある事業所の施設長の方から、「2年生の実習は課題を見つけるもの」という言葉をいただきました。3日間から10日間と、生徒によって異なる期間ではありますが、実習終了後は、実習先からの評価表をもとに進路面談を行う予定です。良い評価については自信にしてもらい、課題を御家庭と共有し克服することで、進路実現に向けた3年生の現場実習に結び付けてほしいと願っています。

(武井 理、宗形 秀人)

### 【高等部3年】

1年生の最初の進路だよりで、私はオズの魔法使いの話をしました。しかし、ブリキ、ライオンはそれぞれ知恵、優しさ、勇気を求め、ドロシーと冒険の旅に出ました。しかし、それらの力は元々彼らの内に確かにあったのです。ただ本人がそのことに気が付いていなかったただけだったのです。冒険を通して彼らはその力を呼び覚ましたのでした。

さて、生徒たちはどうでしょうか？この3年間で、自分たちの可能性に気が付くことができたでしょうか。卒業が近づく中、私は生徒の皆さんの成長を実感し、喜びを感じる日々を送っています。もしかしたらまだまだ冒険を続ける必要がある生徒もいるかもしれません。しかし、きっと皆さんが自分の中にあるすてきな可能性に気が付いてくれると信じています。ドロシーとトト、そして3人の物語はエンディングを迎えますが、生徒の皆さんの物語は卒業してからが本編です。卒業後の物語が、もっともっとすてきなものになるように、今からでもできることがきっとあるはずですよ。(森井 綾香、和泉 悠太)